

テーマ別パスファインダー



卒業論文にとりかかる



✦ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2015年2月16日
大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |
ラーニングコモンズ るくす | LSチーム

I. イントロダクション

＜ 「卒業論文にとりかかる」 とは？

さて、そろそろ卒論にとりかからなくてはならないなあと思っている方もいらっしゃるでしょう。でも、一体何から手をつければ良いのでしょうか？

このるくばすは、これから卒業論文に取り組まなければならない、何かしなければいけないのは分かっているけれど、何をすればよいのかいまいち分からず困っている、そんな方が無事に執筆活動にこぎつけられるよう、その助けとなることを願って書きました。まだ本格的に執筆活動が始まっていない、研究が軌道に乗る前の人を対象にしています。

執筆活動が始まり、研究が軌道に乗って、論文の書き方そのものにヒントが欲しくなったら、他のるくばす(例：「文章を上手に書けるようになるには」「参考文献の書き方」「レポート・論文を書く前に知っておきたいWORDの機能」)等がありますので、そちらを参照ください。

II. 研究するテーマを探す

＜ 指導教官が指導してくださる範囲の中で興味のある分野をおおまかに絞る

自分の指導教官が指導してくださる範囲の中で、自分が何に興味があるのか考えます。先生によっては、かなり幅広く受け入れてくださることもあるので、まずはおおまかに絞ります。歴史でしょうか、教育でしょうか、文化でしょうか、言語学でしょうか。

卒論のテーマは卒論を書き終えるまで、約一年間ひたすら向き合うことになります。書いていくうちに、当初予定していたものと方向性が変わることは多々ありますが、途中で行き詰まってテーマを全く別のものに変えるとなると、その新しいテーマを一から調べ始めることになり、時間的に執筆し完成することが厳しくなりますから、慎重に選びましょう。指導教官の指導可能な事柄の中に、これといって自分が研究したい事柄が思いつかない、という場合、自分の就職活動や将来の目標に直接つながるようなテーマを選ぶのも、一つの方法です。それが無理でも、少なくとも、毎日そのことばかりを考えても嫌にならないテーマを選ぶ方がいいでしょう。

それでも候補があまり思い浮かばない、という場合、独り机に座ってテーマを考えるのではなく、論文集の目次等を利用して多種多様なテーマをざっと見ながら、興味を持ってそうなものに少しずつ絞っていくのが良いでしょう。論説資料などの目次をざっと見て、おもしろそうだな、と思ったものや、自分がテーマの候補として考えているテーマに関連する題目を見つけたら、その論文を少し読んでみましょう。

III. 研究するテーマを決める

研究できそうなテーマがいくつかある場合、最終的には、その一つに決めなければなりません。上では、テーマを慎重に選びましょう、と書きましたが、卒論のメインイベントは研究と執筆ですので、テーマを決める作業はなるべく早く済ませたいものです。

複数の候補テーマがあるなら、それぞれを卒論のテーマとして選ぶメリットとデメリットを紙に思いつく限り書き出し、究極的に言って自分には何が一番大事かを考えて総合的に判断し決定することになるでしょう。先生と相談しても、どちらも卒論として良いテーマだと言われ、自分としても優劣が無い場合、自分が卒論を書く目的を考えます。大学院を受験する可能性があるのであれば、大学院での研究を延長線上に描けるテーマにした方がよいかもしれませんし、志望職種と卒論のテーマがうまくリンクしそうなのであれば、志望職種とより関係の近いテーマにしたほうがよいかもしれません。しかし、ちゃんと卒論を書き終えて無事卒業できれば、特に他に考慮する要素は無いということも多いでしょう。そうであれば、多くの場合どちらのテーマを選んだとしても、執筆作業を通して正式な文章の書き方、研究の仕方を学ぶことができ、あなたの目的にかなうものとなるでしょう。悩む期間は最低限にし、勇気を持って決めてしまいましょう。

IV. どのぐらいのレベルの研究が要求されているのか把握する

テーマが決まったら、あるいはテーマを考えながら次の作業に進みましょう。どの程度の文章を書けば、卒論として認められるのか知っておくと、資料集め、分析、執筆、全ての作業がずいぶんとやりやすくなります。ですから、執筆作業にとりかかる前か、とりかかってすぐの早い段階で、卒論ではどれぐらいのレベルのことが求められているのかを把握しましょう。

この時点で、自分の考えているテーマについて、また、具体的にどのような調査や研究ができそうなのか、しようと考えているのか等について、自分の指導教官とよく相談しておきましょう。先生は、今まで何十、何百の学生の卒論を指導してきており、この点での判断はかなり信頼してよいでしょう。先生がそのテーマや研究内容では卒論として成立するのは難しいと言われたなら、頑なにそのテーマと方向性で書き続けるのはかなり危険です。焦点を絞るべきか、視野を広げるべきか、はたまた視点を換えるべきか等、よく話し合っておきましょう。

V. 先行研究を調べる

先行研究を調べなければならない理由

テーマが決まり、卒論の要求水準を把握できたら、さっそく先行研究を調べます。しかしなぜ先行研究を調べなければいけないのでしょうか？自分の思いついた調査や研究を実行してまとめるだけではいけないのでしょうか？はい、それではいけません。

自分が所属しているゼミでどれほどのことが要求されるかにもよりますが、基本的に論文というものは、新しい知見または視点を含めなければなりません。そのためには、今まで先人がどのような方法を使ってどのような結論を得てきたのかを知らなければ、まだ十分に研究されていないことが何であるのか分かりません。先行研究を調べることなく、自分で思いついたテーマを自分なりの方法で研究を進めても、もしかしたらとっくの昔に他の人が研究し、十分に確立された結論を述べるだけの、後追い研究にしかならないかもしれません。また、このような研究はほとんどの場合、先行研究ほどの成果も得られないでしょう。

先行研究の探し方

先行研究を調べる必要があるのは分かりました。しかし、先行研究といっても、膨大すぎます。

- 1) まず何から読み始めたらよいのでしょうか。
- 2) 重要な論文を優先的にみつけるコツがあるのでしょうか。

この二点について述べます。

◀ 1) 何から読み始めればよいか？

方法①: 指導教官にそのテーマに直接かかわる代表的な論文、著作を教えてください

指導教官が関連分野で特に良書たる本を紹介してくださっていたり、その分野で権威とされている著作や研究者の名前を教えてくださいする場合は迷わずその本を読みます。特に代表的な良書が分からない場合や、自分で探すように指導された場合は②、③の方法に移ります。

方法②: 大学図書館の蔵書を探す

まず、そのテーマのキーワードで阪大の図書館の蔵書がどれくらいあるかを調べます。キーワードが広すぎると、1000以上の蔵書がヒットしてしまうので、キーワードをより限定的なものに変えるか、更にキーワードを加えるか、検索の絞り機能を使って、(例: 所蔵館で「外国学図書館」、資料タイプで「図書」、言語を「日本語」を選択)などして、題をざっと見通せる件数にします。タイトルを見て、その分野での入門書的な本を一冊借ります。このとき、図書館のweb上の蔵書検索だけで必要な先行研究が全て列挙されるわけではないことに注意しましょう。

方法③：インターネットで公開されている論文を見る。

インターネットで公開されている論文だけで先行研究調査が終えられることは一般的な分野ではまずありませんが、とりかかりとして手っ取り早く研究の動向を探るのにインターネットは便利なツールです。インターネットで自分の考えているテーマのキーワードを打ち込むと、インターネットで公開されている論文がヒットして見ることができる場合があります。要旨のみが公開されている場合もあれば、全文が公開されている場合もあります。

方法④：上記①～③で手に取った著書や論文の参考文献から芋づる式に他の資料を探し出す

方法①-③を通して、論文や書籍に目を通す主な目的は、その本で知識を深めるというのもありますが、もう一つの重要な目的は参考文献を見るためです。図書館に蔵書されている本の中に、これから調べたい研究テーマと密接な関わりがある論文が掲載されていても、図書館の Web の検索機能では、書籍の中に含まれている論文のタイトルまで検索できないことがあります。したがって、論文集の中に入っている重要な論文が、図書館の Web 検索だけではみつけきれないのです。このような場合、論文の参考文献一覧の中からその論文が収められている書籍を把握して、ピンポイントで探し出すしか方法はありません。

◀ 2)重要な論文から集めていくポイント

- ・ 色々な論文でよく引用されている文献は、重要である可能性が高いです。
- ・ 論文によっては、そのテーマでの過去から現在までの主な研究、すなわち先行研究をまとめながら簡単に紹介してくれていることがよくあります。たとえば、下は実際の論文ですが、「先行研究」という節が存在し、これまでの先行研究をまとめてくれています。

2. 先行研究

従来の日本語指示詞の研究では、佐久間（1936）と三上（1970）以来現場指示的用法を中心に扱われてきている。文脈指示的用法を扱った研究として、久野（1973）、黒田（1979）、金水・田窪（1990）、田窪・金水（1996）、東郷（2000）などが挙げられる。しかし、これらはソとアの対立に関する問題を扱った研究であり、コとソの対立に関する問題は本格的に研究されていない。この問題を取り上げた研究として、庵（2007）が挙げられる。…（劉麤（2012）「物語における日本語と中国語の文脈指示詞の対照研究—談話構造の観点から—」『日中言語対照研究論集』（14）78-92。）

この分類や記述が正しいかどうかは、自分で直接その論文を読んで確認する必要がありますが、これからそのテーマについて情報収集をするのであれば、道しるべとして大いに役立つのは間違いありません。そこにでてきた先行研究の中で自分が読む必要があると思うものを、後ろの参考文献リストでタイトル等を調べて、図書館で借りるなどして読んでみましょう。

・最新の論文や書籍で、今後の課題として挙げられている事柄、さらなる研究が必要だと述べられているところは、いまだ十分に確立された研究結果が出ていない可能性が高く、自分の手に負えそうで、何らかの結果が述べられそうであれば指導教官と相談の上、自分の論文のテーマにしてみるのもいいかもしれません。

先行研究を調べるさいに忘れないでいてほしいことがあります。先行研究の研究がおもしろくなって没頭してしまい、当初の目的を見失わないように注意してください。先行研究を調べる目的は、今までの研究の流れを知り、自分が大きな研究の流れの中でこれからどの部分に焦点を当てればよいかを知ることです。いつまでも先行研究の研究をしているわけにはいきません。卒業論文を書くこと、この目的を見失わないようにしましょう。

ここまでで、やっと卒業論文にとりかかる準備ができました。研究は書きながら必要な事に気づくことがほとんどです。書いていくうちに、収集が必要なデータに気づいたり、読むべき文献がはっきりわかったりします。いったん書き出すと、自分の頭の中も整理され、思いのほか勢いよくかけるという場合も珍しくありません。頭の中で考えているだけではなく、実際に文章にしてみましよう。そして執筆という卒論の醍醐味を味わってください。

✧ [パスファインダーの凡例]

✧ 図書情報は以下の順に表記しています。(主に論文の参考文献に使われている書式です。)
著者名 (出版年) 『本の名前』 出版社名, 翻訳者名 (あれば)

✧ 説明の最後に、【 】で貸し出し可能な図書館と配架場所、請求記号を記しました。

総合図 → 総合図書館 (豊中キャンパス)

生命図 → 生命科学図書館 (吹田キャンパス)

理工学図 → 理工学図書館 (吹田キャンパス)

人図 → 人間科学研究科図書室 (吹田キャンパス)

外国図 → 外国学図書館 (箕面キャンパス)

外国図-雑誌 → 直近1~2年に出版されたものは3階雑誌コーナー、バックナンバーは1階書庫

電 → 電子ジャーナル、電子ブック

※雑誌、電子ジャーナルは、すべての巻号が利用できるとは限りません。

✧ 検索を容易にするために、ISBN (各図書固有の識別番号) や ISSN (各雑誌固有の識別番号) を記している場合もあります。

✧ 外国学図書館を中心に紹介していますので、記載している場所以外でも貸し出し可能な場合があります。図書館各階にある検索端末で確認するか、カウンター/LS デスクまでお尋ねください。